

未完

栗香漫筆

壬申日記の筆ノ出

明治五年 章記事

四月朔日

一 東京府権参事三島通事入来新橋を橋り向
 練石石流家屋築造之義を以て大蔵省不體裁
 之義を以て議者有るを以て國憲民法に不立旨を以
 府縣下之人民を以て憐れむ以て府下知事等以て
 以外を以て現片大蔵省を以て民政を以て治民正
 之九七休裁きを得るの且政府之意願一切人民
 之を徹す 仍於本院を非之内務省を造る
 建議の改考者中三島、其議、三島大奮
 散、日意法何留、其書力、改、与、佐、均

同日

早朝三島入、中、西郷参議、其、集、評
 議、法、来、三、細、法、大、略、九、也
 三島曰大蔵之下、府縣者、上下之情
 難塞其官名甚、仍、新、之、内、務、省、を、以、置、
 大蔵、之、権、を、移、す、民政、を、賜、す、其、之、を、急
 務、と、此、議、論、を、院、に、以、て、之、
 西郷曰、此事、院、に、奉、志、あり、正、院、に

中、の、徒、の、大、蔵、之、利、害、を、以、て、甚、と、見、せ、
 神、速、に、策、を、建、す、
 三島曰、板垣、其、真、に、奮、發、す、と、以、て、此、事、を、
 君、操、る、と、せ、
 西郷曰、僕、一、人、に、以、て、此、事、を、以、て、況、や、板、垣、
 同、意、す、と、壯、志、あり、此、事、に、極、力、を、以、て、一、
 滴、也、大、蔵、之、防、御、を、以、て、策、を、建、す、仍、而、變、策、
 急、議、を、論、す、其、人、を、極、力、を、以、て、大、切、と、見、
 極、力、を、以、て、
 右、大、本、を、以、て、以、て、西、郷、に、輔、老、原、敬、也、

口人は、大、蔵、省、大、蔵、卿、と、西、郷、を、以、て、
 歸、野、也、一、人、を、以、て、法、政、を、以、て、
 高、崎、を、以、て、置、賜、を、以、て、
 少、生、三、島、宅、を、以、て、集、議、の、討、論、着、手、を、以、て、
 出、物、一、分、三、島、の、得、也、

早稲田大学図書館
 文書 27
 A 40



口人は大蔵卿と西郷が留學の
高崎實業参事

少生三島宅集層の討論着手をすべし
出初一三島内

一参朝前板垣参議立寄三島内物事
及密議板垣甚其心腹西郷極保
上り如何快之誠公其心

一参朝左院右院後藤議長内議
院持白一書為其旨中画一
以事

一三島原入間縣参事ら小生
建白書二通

三島原に上成多秋中本
子三島原より大藏卿民政
福利を未達之建白あり

一土方大内吏より高崎
事誰人より直り内談有
兵衛と市人不然有秋
中議生板山由清と相
案未調中在國憲不立民法
民法は吾等も根元之國憲
固有之君民同治之定律
て定む所あり

一参朝前柿野掌記と招き建白書
内務創立之草案七代写為
一左院退下後三島通津宅
其六吉原参事會一國憲
事件七談す深更と論じ且
日日後藤内務卿之草案を
三島宅に民政を為るの西
留學中と云ふ

同日

一参朝前柿野掌記と招き建白書
内務創立之草案七代写為
一左院退下後三島通津宅
其六吉原参事會一國憲
事件七談す深更と論じ且
日日後藤内務卿之草案を
三島宅に民政を為るの西
留學中と云ふ

一参朝前柿野掌記と招き建白書
内務創立之草案七代写為
一左院退下後三島通津宅
其六吉原参事會一國憲
事件七談す深更と論じ且
日日後藤内務卿之草案を
三島宅に民政を為るの西
留學中と云ふ

一参朝前柿野掌記と招き建白書
内務創立之草案七代写為
一左院退下後三島通津宅
其六吉原参事會一國憲
事件七談す深更と論じ且
日日後藤内務卿之草案を
三島宅に民政を為るの西
留學中と云ふ

